



ごあいさつ

皆様には、日頃から市政へのご理解とご協力を賜り、厚く御礼を申し上げます。
5月には、2020年東京オリンピックチケット抽選申込み受付が開始され、6月に抽選結果が発表されました。私も一生に一度の機会と思い、申込み致しましたが、残念ながら全て落選してしまいました。
しかし南魚沼市には朗報がありました。念願が叶い、聖火リレーのコースに南魚沼市が選ばれ、更には八色の森公園が、その当日の最終聖火ランナーが到着するセレブレーション会場に決定致しました。
2020年3月12日にギリシャ古代オリンピア市聖火採火式が行われ、ギリシャ国内を経て、その聖火は日本に引き継がれて参ります。日本に運ばれてきた聖火は、2020年3月26日に福島県から出発し、以降全国を回り、2020年6月5日に南魚沼市に聖火がやってきます。今からワクワクしてきます。
聖火の光は、多くの人々にとって希望の道を照らし出すものといわれ続けてきております。令和という新しい時代が幕を開け、南魚沼市にとっても、市民にとっても希望の道へと導いていける光になれるよう私も粉骨砕身取り組んで参ります。
そのためには、皆様方の思いやお声が大事であります。出来る限り自ら歩いて皆さんの声に耳を傾けて参る所存でございますが、皆様からも、どうかご意見やご要望等々、小さいことでもご遠慮なく、いつでもお寄せ下さいますようお願い申し上げます。

【ご報告】“3月の一般質問が市政に反映されました！”

私の3月議会定例会における一般質問において、「ディスプレイ使用料月500円は不要ではないか」との意見が反映され、4月よりディスプレイ使用料が廃止となりました。

【議会6月定例会注目施策】

●令和元年5月27日から6月7日までの12日間で開催され、31議案が審議されました。

《議会6月定例会注目施策》

■全小中学校エアコン設置完了

小学校15校140室と中学校3校45室、合計18校185室全ての教室にエアコンが設置されました。総事業予算4億3千万円。

■高齢者運転免許証自主返納者へタクシー券の選択も可能

高齢者の運転免許証自主返納者に対する報奨品として、4月からバス回数券に加え、1万円分のタクシー券も選択出来るよう拡充しました。

■住宅リフォーム事業は、予備費で対応し、全申請者へ交付決定

住宅リフォーム事業「みんな住マイル」改修補助金は、4月15日から4月26日まで受け付けを行い、全申請は、497件、事業費総額7億2,275万円でありました。そのうち補助金交付額は、5,570万円となり、当初予算額5,000万円に対して570万円不足する額は予備費で対応し、申請者全員に交付決定致しました。

■医師確保対策のために医療政策顧問を設置

課題であります医師確保対策のほか広く市の医療施策全般への専門的な見地から検討及びご意見を頂くために、新たに医療特別顧問を市長部局に設置することになりました。任期は6月から翌年3月までの10か月間で、予算額は、151万4千円。

■インバウンド推進のために国際交流員を設置

10月1日から12月31日まで開催される新潟県・庄内エリアステーションキャンペーンと来年の東京2020オリンピック・パラリンピックを見据え、インバウンドに対応できる観光地を目指し、外国人向けのパンフレットや看板サイン、また情報発信等々受入基盤整備や雪国特有の内容を活用した誘客を更に推進していくために商工観光課に国際交流員を設置することになりました。任期は7月から翌年3月までの9か月間。予算額は224万1千円。

南魚沼市議会議員 目黒哲也は、一般質問を行い皆様のお声を市政にお届けいたしました。◎質問と答弁は以下の通りです。
(一部抜粋)

一般質問

「スポーツ健康都市への取り組みは」

市長答弁

「生涯スポーツへの要求を高めていく」

右のQRコードをスマートフォンなどで読み取ると、一般質問の録画映像をご覧いただけます。



目黒 スポーツ健康都市への推進計画とその効果は。

市長 平成29年度に第2次南魚沼市スポーツ推進計画を策定し、(1)生涯スポーツ推進、(2)スポーツ施設の整備・充実・利用、(3)子どもの体力の向上、(4)競技スポーツの推進、(5)スポーツ支援体制の整備の5つの基本方針に基づき取り組んで来た。その中でスポーツ&ライフ南魚沼が立ち上がり、今後のスポーツ実施率向上につながっていくと考えている。加えて施設においては、モンスターパイプ、スケートパーク、トレーニングセンターが整備され、更に今後、ディスプレイの敷地内にスラックラインパークを予定している。

目黒 第2次南魚沼市スポーツ推進計画の基本理念は、「スポーツによる健康で豊かな生活の実現～ウォーキングからオリンピックまで～」と掲げてあり、その取り組みとして新潟県健康ウォーキングロードが市内に6コース指定してあるが、その周知と啓発そして利用促進は各地域づくり協議会と連携を取りながら行うと計画してあるが実際の取り組みはどうか。加えて冬期間は各地域のアーケード・雁木を活用できるように関係機関と調整して行うと計画してあるが実際取り組みはどうか。

福祉保健部長 新潟県健康ウォーキングロードについては、保健課と地域の方と一緒に認定を行いました。周知については、市報に掲載し広報している。

教育部長 冬期間の取り組みについては、今のところ地域づくり協議会並びに各地域の関係機関との連携の取り組みはしていない。

目黒 ウォーキングの訴求や「プラス・テン(+10)」活動等を参考に、南魚沼市独自のスポーツ指標を設け、スポーツ実施率の向上を目指すとするが実際はどうか。

福祉保健部長 「南魚沼市いきいき市民健康づくり計画」で指標を定めております。年齢が20歳から64歳の方で、1回30分以上の身体運動を週2回以上、それを1年以上持続する人を男性で30%、女性で25%を目標値としている。平成27年度において男性28.2%、女性16.5%となっている。目標値達成に向けて計画している。

目黒 健康志向のターゲット向けに、健康マイレージ等の企画を立案してスポーツ実施率の向上を図るとあるが、実際はどうか。

福祉保健部長 今のところ健康マイレージや健康ポイントを付与しての取り組みはしていない。今後は、保健課と生涯スポーツ課と連携を深めながら検討していきたい。

目黒 冬期間のウォーキングに代わるスポーツとしてクロスカントリースキーの普及を図るために市内小学校では、冬期間外授業として実施し、社会人向けにはナイター営業を活用していくとあるが実際はどうか。

生涯スポーツ課長 欠之上クロスカントリーコースを常設している。利用状況は、平成30年度7,900人程度。ナイター営業については、PR不足である。平成31年度から指定管理者がベースボールマガジン社に変わりましたので、連携して利活用も含めPRに努めて参りたい。

目黒 スポーツツーリズムへの取り組みへの考えは。

市長 地域経済に大きな効果をもたらす、スポーツと観光を合わせ、また福祉分野にも発展させていくことで、これからの観光の主流になる可能性があると考えている。

目黒 活動組織として地域スポーツコミッションを設立したらどうか。

市長 この度、「自転車を活用したまちづくりを推進する全国市町村長の会」に加盟をした。まずはこの活動に取り組み、今後の推移をみながら体制整備を検討していく。

目黒 障がい者スポーツの普及についての取り組みは。

教育部長 総合支援学校を核に多くの取り組みをしている。今後も充実させていきたい。

目黒 坂戸山寺が昇登山口、六万騎山登山口、坊谷山登山口の駐車場確保並びに銭淵公園・ディスプレイ駐車場拡大、加えて欠之上小学校跡地を駐車場にする必要があるのでは。

市長 大きな課題になってきている。予算もかかるので検討を加えていく。

目黒 特に普通財産に切りかわった欠之上小学校跡地については、その後の活用は欠之上行政区民の意向を聞き、共有を十分に図って進めてもらいたい。



裏面へつづく→→→

一般質問

「地域医療特別顧問を置く目的は」

市長答弁

「医師の確保」



目黒 どのように進め、最終到達目標は。

市長 市のデーターを分析し、内部ワーキングチームで議論し、医師確保への実効性ある取り組みを進めながら、医療・福祉・交通等々を含めたこれからのまちづくりを探っていきたい。

目黒 大和病院は40年以上にわたり、全国の先進地として、この地域の医療・福祉・保健をリードし、市に多大なる貢献をしてきました。現在、病院はかなり老朽化が進み、いつ何ぞし設備が停止するかもしれない危険があると聞いている。今後の大和病院の方針を伺う。

市長 大和病院の老朽化は承知している。市民病院群の先生方ともいろいろな意見交換し、現状の把握もしている。その中に建て替えという話も当然ある。しかし建て替えが先にありきではなく、これから我々が目指すべき方向性を決めることが先であると考える。医療特別顧問を中心としたワーキングチームで医療福祉分野だけでなく、まちづくり全体として検討していく。

めぐりの目

キーワード⑤「スポーツ健康都市」

前回の東京オリンピックが1964年に開催され、それを契機に、国では1961年に、スポーツを国民一般に広く普及させるためにスポーツ振興法を制定しました。それから50年を経て、2011年に全部改正し、スポーツに関する基本理念や、スポーツに関する施策の基本となる事項を定めたスポーツ基本法が改めて制定をされました。

更には、2015年には、文部科学省の外局としてスポーツ庁が創設され、障害者スポーツに関する施策や福祉の観点も加えて、スポーツ振興を一層推進していくスポーツ政策の充実を図ってきました。余談ではありますが、鈴木大地初代スポーツ庁長官は、大学時代に寝食を共にしました私の先輩になります。

そのスポーツ政策の基本方針は、(1) スポーツで「人生」が変わる！(2) スポーツで「社会」を変える！(3) スポーツで「世界」とつながる！(4) スポーツで「未来」を創る！という「4つの指針」を示し、「スポーツ参画人口」を拡大し、「一億総スポーツ社会」の実現に取り組むこととし、経済効果、地域振興、国民の健康増進を目指したスポーツ立国へ国家戦略として取り組んでいるところであります。

南魚沼市では、市民一人ひとりが自らの健康の維持増進に関心を持ち、スポーツを通じて健やかな心と体をつくるために日常的にスポーツに親しみ、また適正な予防医療を組み合わせることで、いきいきとした生活を実践する契機となることを目的として、2015年にスポーツ庁の発足に合わせて『南魚沼市スポーツ健康都市宣言』を行いました。

現在、国が力強くスポーツ政策を推し進めているもと、健康都市宣言をしました南魚沼市において、私は「地域振興の発展」や「健康長寿社会」を目指してスポーツ・ツーリズムを推進していくことが市の発展や福祉向上において大事ではないかと考えます。スポーツ・ツーリズムは地域への「社会的な効果」と「経済的な効果」が期待できます。

「社会的な効果」としては、現在、我が国の国民医療費は年間で約42兆円に達しております。スポーツを楽しみながら適切に継続することで、生活習慣病の予防・改善や介護予防を通じて健康寿命の延伸や社会全体での医療費抑制への貢献が期待されます。このようにスポーツを通じた健康増進を図ることにより、健康で活力に満ちた長寿社会の実現が可能であります。私は南魚沼市のスポーツ人口・関心層を拡大し、「スポーツのまち」としてのブランディングを醸成していくべきであると考えます。

また「経済的な効果」としては、景観・環境・文化等の地域の資源や特色をスポーツと掛け合わせることで、地域の魅力やチカラが最大化されます。私は南魚沼の自然や文化そして温泉や食をスポーツと掛け合わせ、季節または年間を通じて体験可能なスポーツアクティビティを創出し、観光やスポーツ合宿・キャンプ等の誘致をしていくべきであると考えます。

そのためには、地方公共団体とスポーツ団体、観光産業などの民間企業が連携し、一体となった組織「地域スポーツコミッション」が必要となってきます。

スポーツ庁では平成27年度より、地域スポーツコミッションの活動に対して支援をしております。南魚沼市でもこの地域スポーツコミッションを創設し、国からの支援を受けてスポーツを通じた地域振興の中心的存在として活動していくべきと私は考えます。

本年2019年から2021年の3年間にメガスポーツイベントが続くことからゴールデンスポーツイヤーと呼ばれ、国内から海外までスポーツ熱が高まっている今こそ、スポーツ政策を推進していく絶好なチャンスの時であります。

“スポーツで「社会」を変え、スポーツで「世界」とつながり、スポーツで「未来」を創っていきましょう！”

【これぞ！南魚沼のスポーツ・ツーリズム!! 自然×歴史×文化×登山×食×温泉】

私の生誕日、6月23日(日)に開催した坂戸城跡国指定文化財40周年記念「絵図を見ながら登ろう坂戸山」に参加しました。1817年頃の坂戸城の絵図を見ながら歴史を辿りながらの登山でありました。



7「一本杉」



かつては、この一本杉辺りは、スキー場であった。昭和の初め位までは、薪として使っていた為に坂戸山にはほとんど木がなかった。

12「三日月石」



薬師尾根の2合目から3合目は、「御月山」と呼ばれ、現在ではかたくりや桜が咲き誇る場所に、三日月が象られた「三日月石」がある。その石の下から壺と鏡が出てきた。壺の中には通常お経が入っているが、発掘時にはお経は見つからなかった。壺と鏡は現在、市民会館に展示してある。

3「埋田堀」



魚野川の旧河道を使った坂戸城の内堀である「埋田堀」。かつては坂戸山際まで魚野川が流れていた。現在の埋田堀も当時に近いように再現している。また当時は、登山口手前の埋田堀の辺りに「一ノ門」があった。容易に入ることができないように警備が行われていたと考えられる。

5「家臣屋敷跡」



御館への道の両側は数段の平地があり、直属の家臣の住居跡で、御館周辺は多くの家臣で守っていたことが想像できる。またその形から長屋式と思われる。この御館に続く道の前に「二ノ門」があったとされ、警備の厳重さが分かる。

9「主水曲輪」



樋口主水が築いたことでこの名がついた「主水曲輪」は、五十沢方面からの攻撃に対して特に厳しい防御を施していた。曲輪の先端を土盛りして防御する武者隠しや、坂戸城最大の空堀が配置されており、尾根を切断してあるのが分かる。特に春先、残雪で地面が切っただけの様子がよく見れる。

12「お地藏様」



薬師尾根を登っていくと、お地藏様が連なって建っている。本来は33体あるはずが、現在、32体しかない。1体は五十沢の方が持って帰ったとの言い伝えがある。またメイン登山道である薬師尾根は、大正天皇の即位を記念して作られた。

4「鳥坂神社」



現在のさいたま市山の家裏手であった「諏訪神社」と現在の龍言の前にあった「羽黒神社」の両社をもって坂戸城の守護神としていた。その両社を明治41年に合祀して造られたのが、登山口にあるこの「鳥坂神社」である。

6「御館の石垣」



御館の正面の「石垣」は、坂戸山の堆積岩を使用し、戦国期の石垣の特徴である自然石の野面積みで、隅の石が縦に使われるのも特徴的。この石垣は県内の山城では他に類のない規模である。



参加者の集合写真。東京都と埼玉県からの参加者も。この企画は、南魚沼の自然・歴史・文化・登山を掛け合わせ、地域の持つ魅力を高め、更に食と温泉を加えることで南魚沼のポテンシャルが広がっていく。スポーツ・ツーリズムの可能性を肌で感じました。スペシャルガイドの上田史談会大嶋匡様ありがとうございました。